

1 報道された障害者の人権侵害主要事件・事故一覧

(日付、事件・事故の概要)

(1) 死亡事件

子殺し・心中

- 1983.11.13 母親、将来を悲観して養護学校中学部1年の自閉症児の長男を絞殺。
- 1984. 1. 9 母親、育児の苦勞から将来を悲観して、寝ていた自閉症 (4) を絞殺し、自分も自殺未遂。
- 1984. 1.24 73歳の母親、看病疲れと先行きを悲観して知的障害の娘を絞殺。
- 1986. 5.12 母親、将来を悲観してダウン症の次男(1)を絞殺。
- 1987. 8.22 祖父、重度重複障害の孫(10)を絞殺し、自殺未遂。
- 1992. 6.27 病弱の兄(68)、将来を悲観して重度知的障害の弟(59)を絞殺して自殺。
- 1992. 9.27 父母、精神遅滞の息子が暴れた際、二人で布団を被せて窒息死。
- 1999. 6.15 母、知的障害の長男(13)を連れて水死(福岡)。

体罰・虐待・いじめによる死

- 1983.10.26 成人の「精神薄弱」者施設で、指導員が入所者(36)に「エビ固め」をかけ脊髄損傷により死亡。
- 1985. 1.20 「精神薄弱」者授産施設で、「寝ないで騒いだ」として職員が入所者を殴り死亡させる。
- 1987. 1.18 小学校特殊学級の教師が、担任の頭骨変形の子供(8)が授業中に習字を書こうとしないのに腹を立て、こぶしで頭を殴ったため、硬膜外血腫で死亡。
- 1991.11.15 中学生4人が障害のある中3女子生徒をいじめて暴行し死亡させる。
- 1996. 5.15 滋賀サングループ社長、横領で逮捕。死者4名、蒸発者3名、栄養失調者2名、サラ金利用者3名、預金年金横領被害者16名、虐待等。

社会的放置による死

- 1983. 8. 1 兄の病死により二人暮らしの知的障害の妹(40)が餓死。

- 1983.11.11 父親の病死から 1 か月、食事が作れない「情緒障害」の娘(33)が衰弱死。
- 1983.11.14 母親の病死から 1 か月、知的障害の 26 歳の長女餓死。
1991. 6. 2 母親の病死により、重度重複障害の 28 歳の長男餓死。

(2) 体罰・虐待暴行事件

学校における体罰・虐待暴行

1983. 7. 6 小学校特殊学級で母親の付添いがない 4 日間、多動の自閉症児を砂場の鉄柱に紐でつなく。
1984. 3. 1 公立養護学校の訪問教育の子供とその両親が、訪問教育の教員の暴行で子供が怪我をしたと県を相手に民事訴訟(1 審敗訴、高裁勝訴)。
- 1989.11. 1 養護学校高等部の女性教師、物差しで生徒の頭を殴足で蹴飛ばす、ののしるなどで大きく問題化。抗議に対し、全て「教育の範囲内」と表明。
1990. 3.25 中学校特殊学級の女生徒が男性教員から性的被害を受けたと訴え。
1990. 7.11 自閉症児の病院内学級で、男女教員が竹刀で殴打、水をかけるなどの体罰を行う。
1991. 8.20 小学校の通常の学級に入級した 1 年生の「情緒障害児」が動き回り、授業が遅れると、担任教師が教卓に紐でつなく。
- 1992.11.28 公立養護学校で、「児童生徒の脱出を防ぐために」校門を鎖で封じ、塀の上には有刺鉄線が張りめぐらされていることが判明。

施設における体罰・虐待暴行

1982. 6.11 「精神薄弱者」更生施設で、入所者に殴られた職員が仕返し。
1983. 8.11 雇用促進事業団からの助成を受けているクリーニングのモデル工場で、所長が知的障害者の従業員に暴行。
1986. 5.17 「精神薄弱」者更生施設で、逃走を繰り返すとして女性入所者の手足に手錠をかける。
1987. 7. 5 国立の「精神薄弱」児施設で、男性職員が布団やパジャマを破ったとして入所者の顔を殴り、失明状態に。施設側は事実を隠したが、職員が両親に打ち明けて 3 か月後に判明。
1990. 4. 3 「精神薄弱」者授産施設で、入所者を殴り謹慎処分を受けていた職員が、再び他の入所者に暴行を加えていることが判明。

- 1991.10.22 公立の「精神薄弱」者授産施設で、男性職員が2年前より女性の入所者に対して、性的いたづらをしていたことが判明、懲戒免職処分となる。
- 1992. 2.26 公立の「精神薄弱」児施設で、子供が暴れることを理由に「抑制着」を着せられたり、職員の数が少なくなる夜間に胸の前で腕を縛られたりしていたことが判明。法務局人権擁護課が、調査を開始。
- 1999. 7.10 知的障害者施設で男性入所者に暴行して意識不明の状態にさせたとして、指導員を逮捕（長崎）。
- 1999.11.12 横浜市の社会福祉法人が運営する知的障害児施設と隣接するグループホームで園長や職員が平手打ちするなどの暴行を加えた。内部調査で確認した体罰は、1996年以降5件。

その他

- 1999. 9.15 市の元職員(45)が1995年と98年の2回、知的障害者の女性など二人に性的嫌がらせをしていたことが発覚（沖縄）。
- 2000. 5.17 バス停でバスを待つ知的障害を持つ女性に対する婦女暴行で逮捕（佐賀）。

（３）名簿・アルバム等からの欠落

- 1988. 4. 3 中学校で特殊学級5人全員が卒業アルバムの名簿から欠落。
- 1989. 4.13 中学校で特殊学級の2人が卒業アルバムの名簿から欠落。学校側はうっかりミスとしているが、少なくとも3年前からミスが繰り返されていた。
- 1990. 4.11 中学校で、創立10周年記念に発行した校誌の卒業者名簿から、特殊学級卒業生の名簿の一部が欠落。
- 1992. 3.17 中学校で特殊学級の2人の卒業生の顔写真と名簿が卒業アルバムから欠落。
- 1992. 4.27 小学校で、通級制の特殊学級の卒業生の名簿が卒業アルバムから欠落。

（４）正常子宮の摘出

- 1989.11.18 身体障害者施設入所の精神遅滞と脳性マヒを合わせもつ女性が7年前に「生理の時期になると情緒不安定になり、かんしゃくを起こし、暴れだす」という理由で子宮摘出の手術を受けさせられていたことが判明。

- 1989.11.27 知的障害の女性2人が、「性的誘惑に弱い」などの理由で避妊の優生手術を受けていたことが判明。
1993. 6.12 近畿の国立大学付属病院医師が「生理の処理の介助が大変」と頼まれて、精神遅滞の3人の女性の正常な子宮を、本人の同意も得ずに摘出したことが判明。

(5) 逸失利益算定上の差別

- 1980.10.26 知的障害者が交通事故で「植物状態」になっても、保険会社は自動車損害賠償責任保険金を通常の人5分の1しか支払わず。
1992. 3. 5 水泳の授業中に水死した自閉症の公立養護学校生徒(16)の両親が損害賠償を請求した訴訟の判決で、地裁はこの障害児の逸失利益を年間7万円(通常の子供の4%弱)、総額120万円を算定し、通常の人と平等に扱うべきだとする両親の主張を退けた。
1993. 2 盲学校小学部の児童が宿題をやっていないとして担任の男性教諭に左目付近を殴られ、眼球摘出、これに対して、県は「もとも見えなかった目だから逸失利益は認められない」として500万円の損害賠償の提示、子供側は県と教師を相手に4500万円の損害賠償を求めて提訴。

(6) その他(選挙権侵害、預金横領、犯人扱い)

1989. 1.11 東京から転入の「精神薄弱」者更生施設入所者が、山梨県から国民健康保険加入を拒否される。住民票がないために選挙権も行使できず。
- 1989.12.22 「精神薄弱」養護学校の教師が忘年会の余興で、寸劇として生徒の障害や身振り手振りをものまねする。
1992. 9.14 小学校の職員室から成績一覧表が盗まれていた問題で、男性教員が犯人探しのため、「養護学級」児童2人を2日間連続で職員室に呼出し、それぞれ1時間にわたり「聴取」していたことが判明。
- 1992.11.24 枚方市障害福祉課のケースワーカーが担当する精神遅滞者数人の預金通帳・印鑑を預かり、そのうちから約1000万円を横領した疑いで逮捕。
1994. 2.10 世田谷区派遣のホームヘルパーに失明女性の預金2000万円を横領されたとして、区に対して損害賠償と慰謝料支払を請求。
- 1999.12.16 福祉法人入所者預金1億円不明(熊本)。